

鹿児島県における令和元年産さとうきびの生産状況および実績について

公益社団法人 鹿児島県糖業振興協会

【要約】

鹿児島県の令和元年産さとうきびは、台風などの気象災害の影響が少なかったことから、生産量は49万7595トン（前年比110%）、収穫面積は9168ヘクタール（同97%）、10アール当たりの収量は5428キログラム（同113%）となった。

また、県平均の買入糖度は14.10度となった。

1. さとうきびの位置付け

さとうきびは、鹿児島県南西諸島の約6割の農家が生産している基幹作物であり、製糖業などの関連産業も含め、地域経済に果たす役割が極めて重要な作物である（表1）。

本県のさとうきびの平成30年農業産出額は約95億円（前年比89%）で、耕種部門の中では第6位となっている（1位：米、2位：茶〈生葉〉、3位：さつまいも、4位：荒茶、5位：ばれいしょ、6位：さとうきび）。

鹿児島県では、さとうきび栽培農家の所得向上とさとうきび産業の維持・発展を図るため、令和7年産を目標年とする「鹿児島県さとうきび増産計画」（以下「増産計画」という）を策定し、生産者、製糖会社、関係機関・団体と連携し、受託組織の育成や単収向上などの取り組みを進めている。

近年は、度重なる台風などの気象災害や国内で初確認された病害虫の発生などにより、増産計画で定めた目標値を達成できない状況が続いており、早期の生産回復が喫緊の課題となっていることから、6月から7月にかけて、増産計画の達成状況の検証・

評価を島ごとに行い、必要に応じて、改善方策の検討などを行っている。

表1 さとうきび栽培農家戸数など(令和元年産)

地域	農家戸数 (戸)	さとうきび 栽培農家戸数 (戸)	さとうきび 栽培農家割合 (%)	1戸当たり 収穫面積 (a)
種子島	3,270	1,457	44.6	145.8
奄美	7,434	5,353	72.0	131.6
県計	10,704	6,810	63.6	134.6

資料：農家戸数は農林業センサス、農家戸数以外は鹿児島県調べ

2. 令和元年産さとうきびの生育状況

(1) 種子島地域

ア 生育初期～分けつ

3月から5月の気温が高めに推移したことから、発芽・^{ほうが}萌芽は良好で、生育初期はおおむね順調に推移したが、前年産での台風被害の影響もあり、茎数は平年を下回った。

イ 伸長期

大きな気象被害もなく、伸長量はおおむね平年並

みを確保できた。

ウ 登熟期

10～11月の登熟は気象条件に恵まれ、平年以上を確保できた。12月の買入糖度は12.7度と前年平均を上回ったものの、最終的な買入糖度は13.03度となり後半にかけて大きな糖度の上昇は見られなかった。

(2) 奄美地域

ア 生育初期～分げつ

3月から5月にかけて降水量が平年より少なめに推移したことから、発芽・萌芽も平年より遅れ、生育はやや緩慢であった。

イ 伸長期

大きな気象災害もなく、おおむね順調に生育したが、茎数がやや少なかった。

ウ 登熟期

平均気温が高めに推移し、台風被害もなかったことなどから、登熟は良好で、買入糖度は14.48度と前年を1.17度上回り、ここ10年間で最も高い糖度となった。

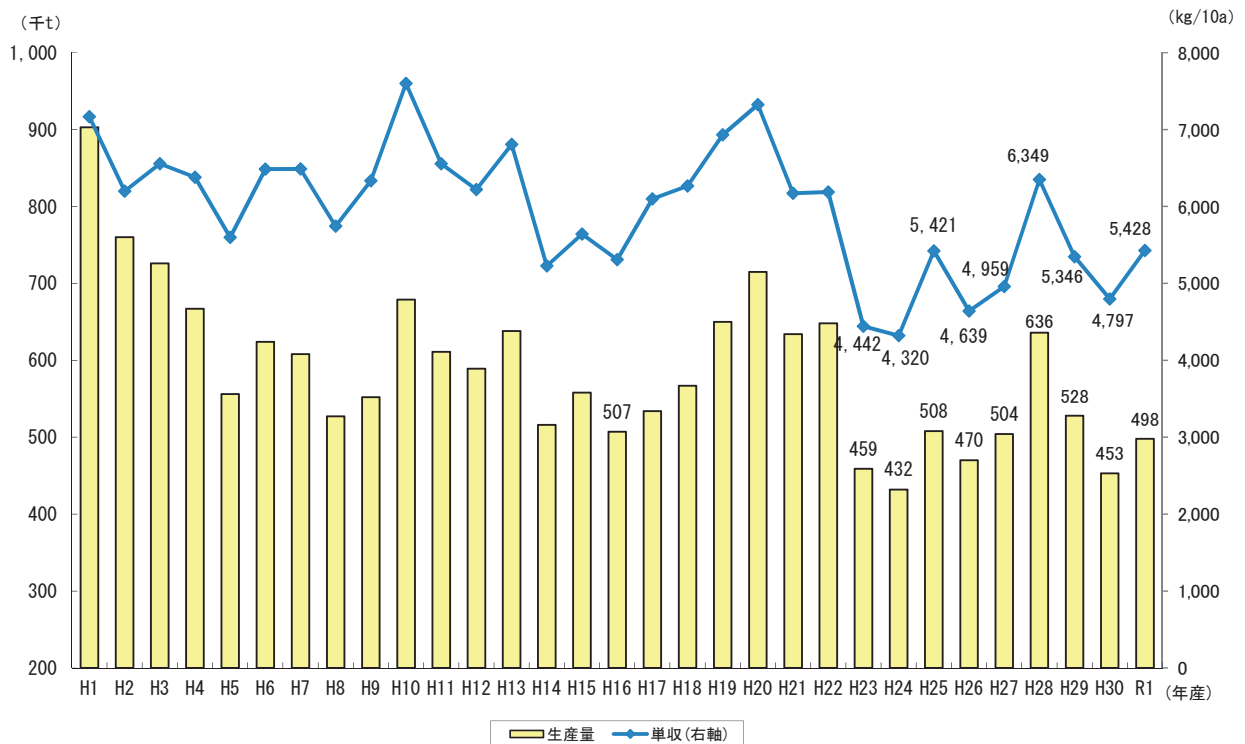
3. 令和元年産さとうきびの生産実績

(1) 県全体

収穫面積は9168ヘクタール（前年比97%）、生産量は49万7595トン（同110%）、10アール当たり収量は5428キログラム（同113%）となり、収穫面積、生産量、10アール当たり収量ともに、増産計画の目標（令和元年産）を下回った（図1）。

なお、生産量の99%（49万1947トン）は、分みつ糖原料用として6社7工場に搬入・製糖されている。

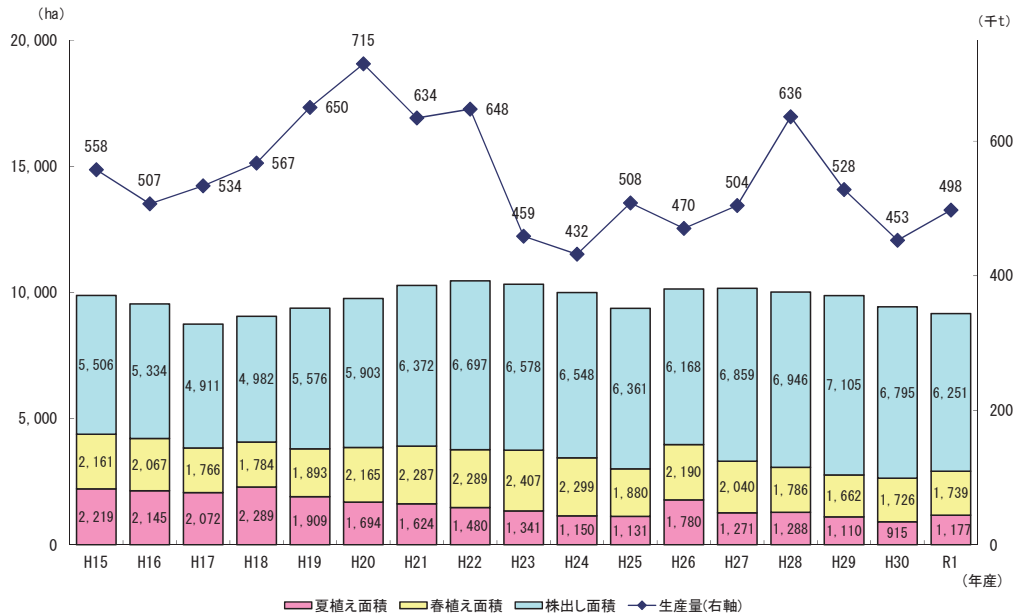
図1 さとうきびの単収と生産量の推移



栽培型別の収穫面積は、株出しが6251ヘクタール（構成比68%）、春植えが1739ヘクタール（同

19%）、夏植えが1177ヘクタール（同13%）であった（図2）。

図2 栽培型別の面積と生産量の推移



注：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しない場合がある。

品種別の収穫面積は、農林8号が26%を占め、次いで農林23号の18%、農林22号の11%の順であった。平成16年産で約7割を占めていた農林8

号の比率が年々減少し、各地域の気象条件などに適した新たな品種への移行が進みつつある（図3、表2）。

図3 品種別面積割合の推移

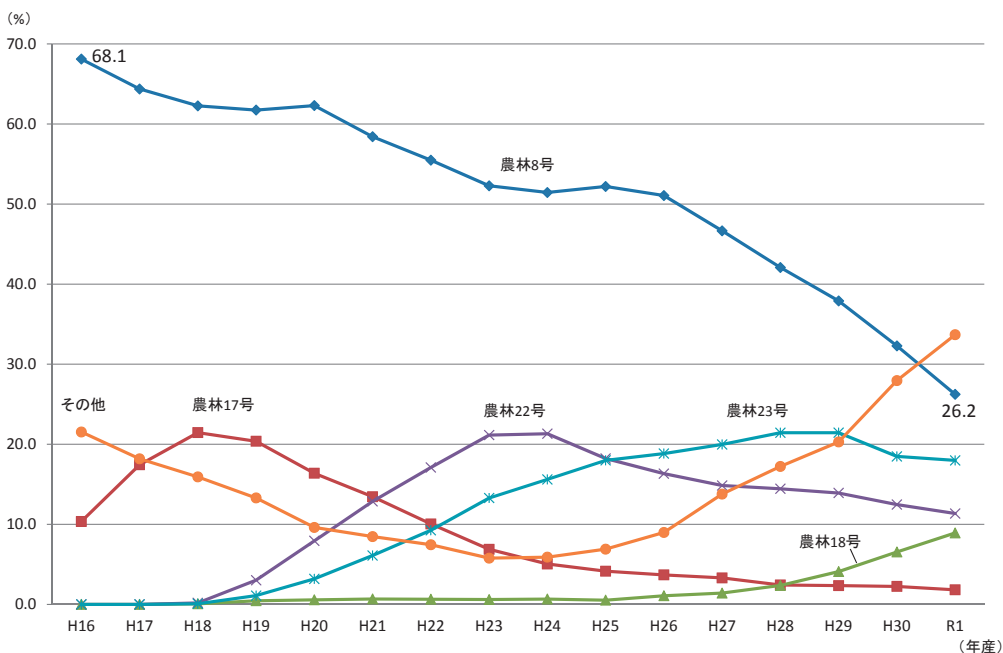


表2 主な奨励品種の特徴（鹿児島県）

品種名	採用年度	特徴
農林8号	H2	多収、早期高糖、株出し萌芽が良い
農林18号	H15	初期生育旺盛、多収（種子島）
農林22号	H17	多収、早期高糖、風折抵抗性強
農林23号	H17	多収、干ばつ条件下でも生育が良い（奄美地域）
農林27号	H28	夏植え多収、一茎重が重い（奄美地域）

（2）各島の状況

各島別の生産実績は以下の通り（表3）。

ア 種子島（西之表市、中種子町、南種子町）

収穫面積は2125ヘクタール（前年比97%）で、生産量は12万9904トン（同113%）で、10アール当たり収量は6113キログラム（平年比110%）であった。

株出し比率は66%で、品種別では、農林8号が46%、農林18号が38%、農林22号が15%を占める。

イ 奄美大島（奄美市、宇検村、瀬戸内町、龍郷町）

収穫面積は566ヘクタール（前年比94%）、生産量は2万5461トン（同109%）で、10アール当たり収量は4496キログラム（平年比108%）であった。

株出し比率は73%で、品種別では、農林22号が16%、農林23号が15%を占める。

ウ 喜界島（喜界町）

収穫面積は1308ヘクタール（前年比99%）、生産量は7万8059トン（同127%）で、10アール当たり収量は5969キログラム（平年比111%）であった。

株出し比率が66%を占める一方、夏植えの比率も23%と高い。品種別では、農林23号が29%、農林8号が13%を占める。

エ 徳之島（徳之島町、天城町、伊仙町）

収穫面積は3182ヘクタール（前年比95%）で県全体の35%を占め、島別では最も多い。生産量は15万7773トン（同108%）となり、10アール当たり収量は4958キログラム（平年比107%）であった。

株出し比率は68%で、品種別では、農林23号が27%、農林8号が22%を占める。

オ 沖永良部島（和泊町、知名町）

収穫面積は1605ヘクタール（前年比103%）、生産量は8万3006トン（同102%）で、10アール当たり収量は5171キログラム（平年比104%）であった。

株出し比率は68%を占める一方、夏植えの比率も21%と高い。品種別では、農林8号が33%、農林22号が31%を占める。

カ 与論島（与論町）

収穫面積は381ヘクタール（前年比93%）、生産量は2万3392トン（同96%）で、10アール当たり収量は6136キログラム（平年比110%）であった。

株出し比率は81%を占め、島別では最も高い。品種別では、農林23号が68%を占める。

表3 島別の生産実績（令和元年産）

地域	収穫面積 (ha)	生産量 (t)	10a当たり 収量 (kg)	平年比 (%)
種子島地域	2,125	129,904	6,113	110
奄美地域	7,043	367,691	5,221	108
奄美大島	566	25,461	4,496	108
喜界島	1,308	78,059	5,969	111
徳之島	3,182	157,773	4,958	107
沖永良部島	1,605	83,006	5,171	104
与論島	381	23,392	6,136	110
県計	9,168	497,595	5,428	108
【参考】 過去最低	8,718 (H9)	431,874 (H24)	4,320 (H24)	—

資料：鹿児島県調べ

注1：平年値は過去7年（H24～30）の中庸5年の平均値。

注2：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しない場合がある。

（3）ハーベスタによる収穫の状況

さとうきびの労働時間の大半を占める収穫作業の省力化を図るため、国庫補助事業などを活用したハーベスタの導入が進められている。

また、県では平成23年度から、低コストで持続的な生産体制の確立を図るため、耐用年数を経過したハーベスタの長寿命化（機能向上）のための事業を実施しており、令和元年度までに57台の機能向上を支援した。

この結果、令和元年産では、収穫面積全体の93.8%、約8599ヘクタールでハーベスタ収穫が行われており、島別に見ると、徳之島が最も高い98%となっている。

4. 製糖工場の操業状況

分みつ糖工場は、1島1社の体制となっており、6島6社（7工場）が操業している。

分みつ糖工場における令和元／2年期の原料処理量は49万1947トンで、前年から4万4769トン増加した。平均買入糖度は14.10度で、前年から1.02度（平年より0.63度）高くなっており、産糖量は5万9941トンと前年を8814トン上回った(表4)。

表4 製糖工場ごとの操業実績

島名	会社/工場名		操業期間	原料処理実績							
				操業開始	R元				増減 (R元-H30, R元/H30)		
			操業終了		原料処理量 (t)	歩留 (%)	産糖量 (t)	買入糖度 (度)	原料処理量	歩留 (p)	産糖量
種子島	新光糖業	中種子	12/10 4/23	129,393	11.15	14,428	13.03	14,810t 113%	0.34	2,042t 116%	0.63
奄美大島	富国製糖	奄美	12/16 3/25	23,318	12.48	2,910	15.19	2,320t 111%	0.50	394t 116%	0.68
喜界島	生和糖業	喜界	12/18 4/3	77,332	12.78	9,884	14.93	16,264t 127%	1.33	2,889t 141%	1.60
徳之島	南西糖業	伊仙	12/19 3/31	79,224	12.72	10,075	14.02	5,462t 107%	0.99	1,426t 116%	1.09
		徳和瀬	12/19 4/1	76,308	12.83	9,788	13.97	5,446t 108%	1.01	1,414t 117%	1.12
		計	—	155,532	12.77	19,864	14.00	10,908t 108%	1.00	2,841t 117%	1.11
沖永良部	南栄糖業	和泊	12/3 4/8	82,979	12.31	10,213	14.69	1,470t 102%	0.36	473t 105%	1.03
与論島	与論島製糖	与論	12/13 3/26	23,392	11.29	2,642	14.66	▲1,004t 96%	1.18	175t 107%	1.21
奄美地域計			—	362,553	12.55	45,513	14.48	29,958t 109%	0.90	6,772t 117%	1.17
県計			—	491,947	12.18	59,941	14.10	44,769t 110%	0.75	8,814t 117%	1.02

資料：日本甘蔗糖工業会調べ

注：富国製糖は、別に1433トンの原料を含みつ糖用に圧搾し、215トンの含みつ糖を製造している。

おわりに

鹿児島県では、関係機関・団体と一丸となり、収穫面積の確保や単収向上に向けて、基本技術の励行はもとより、各種補助事業などを活用した、農業機械の導入や製糖関連施設の整備などへの取り組みを積極的に支援しているところである。

今後とも、さとうきび生産農家の経営安定と、製糖会社など関連産業を含めた地域経済の維持発展を図るため、増産計画で定めた令和7年産の目標達成に向け、大規模経営体や農作業受託組織等担い手の

育成、農業共済制度への加入促進による「経営基盤の強化」、機械化一貫体系の普及・確立や地力増進による「生産基盤の強化」、病虫害防除対策および鳥獣被害対策の推進や優良品種の育成・普及による「技術対策」などに取り組むこととしている。

さらに、製糖会社に対しては、人材の確保と労働基準法の上限規制の適用猶予期間（5年間：令和5年度まで）内での長時間労働の是正を図るため、省力化設備・施設の整備への支援を実施しているところである。